

## 「みえの現場・すごいやんかトーク大学編」 in 高田短期大学の概要

11月2日(水)に高田短期大学で「みえの現場・すごいやんかトーク大学編」を開催しました。

当日は、「来春の卒業に向けて、実習や地域活動を通じて学んだこと」というテーマで、学生自治会役員として活動する12名の短大学生と知事が意見交換を行いました。



### (活動内容の紹介及び自己紹介)

最初に、知事から、これから地域や国を担う若い皆さんの率直な意見を是非聞かせてほしいというあいさつがありました。続いて参加者からそれぞれの学科の説明と自己紹介がありました。



### (地域活動に参加するために必要だと思うこと)

知事からは、「みえ県民カビジョン」で掲げている「幸福実感」「協創」「県民力」というキーワードから、①どんなときに幸せを感じるか②地域活動に若い世代が関わるために何が重要かという質

### トーク参加者及び活動内容について

#### ○ ファシリテーター

伊藤 茂一 教学部長

#### ● 学生自治会

学内外における学生自治を統括し、運営のリーダーを担っている。主な活動として、オープンキャンパス、大学祭などの準備、運営、募金活動などを行っている。

#### 子ども学科

2年 山本 真由 (副会長)  
2年 田淵 早央里 (副会長)  
2年 川井 乙華 (書記)  
2年 近藤 千秋 (書記)  
2年 出口 和加奈 (書記)  
2年 山脇 彩 (書記)

#### オフィス人材育成学科

2年 溝田 実穂 (副会長)  
2年 小田 歩未 (会計)  
2年 中嶋 理佐 (会計)  
2年 青木 茉由 (会長)

#### 人間介護福祉学科

2年 吉田 雅光 (会計)  
2年 今田 浩太 (会計)

問を投げかけました。

学生の皆さんからは、①幸せを実感するときについては、「つながりの中で、大切な仲間と一緒に何かをやっていく時、何かを成し遂げたとき」「やるべきことをしっかり頑張った、達成感があったあとの自分の時間」「自分が誰かの役に立ったとき、周りの人が幸せになったとき」「誰かに支えてもらったときに幸せだと感じたので、今度は支える側になりたいと感じた」などの意見がありました。

また②地域活動に若い人が関わる上で必要なことについては、「ボランティアや地域の取り組みなどに関する信頼できる情報が必要」「いきなり、大学生や社会人になってから地域に関わるという

のは、難しいので、中学生や高校生などのもっと早い段階からボランティアやまちづくりに関わることを体験すべき」「もっと障がい者の方も健常者の方もともに楽しめるイベントなどを増やし、もっとそれらに係わる人を増やすべき」という意見がありました。

### 知事から大学生の皆さんへのメッセージ

最後に、知事から学生の皆さんへお礼とともに、今の前向きな気持ちを是非引き続き、持ち続けてほしいということ、「みえ県民カビジョン」の中で示した「県民力」を結集するために、まずは何ができるのかということについて、ヒントをもらったので、今後是非、政策の中で参考にしていきたいというコメントがありました。

最後に、学生時代は、なるべく価値観の異なる人とつきあうことで、多くのことが得られるはずなので、そういう機会をたくさん持つてほしいとのメッセージがありました。

